

(様式1)

令和8年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立二葉小学校
校長名	由良 隆

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・平均正答率は、全学年国語と算数、社会、英語の教科で全項目、全国平均より上回っている。 ・同一集団を比較してみると、現3・5・6年生の国語の正答率が昨年度より伸びている。教員が専門性をもって指導している成果が出たと考える。 ・6年生の英語は、令和6年度は低かった「思考・判断・表現」の項目が向上し、全国の正答率を上回っている。 ・昨年度の6年生の理科の「知識・技能」の正答率が上がった。予想と振り返りの時間を設け、交流を行うことで、知識を定着していった結果と考える。	・5年生の理科の全項目が、全国平均を下回った。引き続き、学びに向かう姿勢の向上を図ると同時に、理科の学習内容の理解が定着するよう教材教具を研究していく。 ・どの学年も、データの活用や記述式の問題で正答率が下がる傾向がある。得た情報を適切に処理したり、表現したりする力を付けられるよう学習内容の工夫や教材の工夫をしていきたい。 ・正答率が区の平均値を越えた学年が少ない。問題データベースなどの活用を更に推進していく必要がある。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「自分なりに考えて行動しているか」の項目では、昨年度50～60%だったが、80%以上に上がった。 ・「将来の夢または目標があるか」の項目では、80%以上の児童が「ある」「一応ある」と回答している。 ・「できるようになってうれしいことがある」の項目では、肯定意見が85～90%以上となった。	・「物事を最後までやりぬく力」の項目では、高学年に向けて徐々に下がり、2年生に比べ6年生は－10%下回った。B層の児童から自己肯定感が低くなる傾向があるため、教師の声掛けや教材の工夫を今後も継続し、自己肯定感の向上を図る。 ・「夢中になった学習があるか」の項目では、65～75%に留まっているので、児童の心と知識の栄養となるような魅力的な授業展開ができるよう教材研究をしていく必要がある。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・思考ツールを使って、自分の考えを整理して表現できるようになってきた。 ・交流を通して課題を解決し、学習したことを振り返り、次の学習に向かう意識が高まってきている。 ・文章を書くことに抵抗感が少なくなり、語彙力や構成力の向上が見られた。	・家庭での学習習慣に差があるため、宿題の在り方を見直し、学習の個性化を図る必要がある。 ・話し合い活動で、自己主張だけする児童や、人任せにする児童、意図から外れた発言をする児童が一定数いる。伝える力と聞く力を伸ばしていき、協働的な学習を推進する授業力を付けていくことが課題である。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習規律の徹底と学習意欲の向上

- 「のびる二葉の子」を基に、基礎基本的な学習規律の定着を図る。また、個別に使用できる学習用具や器具の充実を図る。
- 学級全体で話し合ったり伝え合ったりする活動を取り入れ、自信をもって発言したり、考えを深めたりできるようにする。言葉で伝えることが苦手な児童に対しては、ロイロノートを活用したアプローチを図る。
- 「学年×10分+10分」を家庭学習の目標時間として保護者に協力してもらい、学習習慣の定着を図る。「宿題」の在り方を見直し、ミライシードを基本とした基礎基本の定着の学習をベースに、学習の個性化を図れるような取組について検討していく。
- 授業の導入には、本時で何を学ぶか(課題をつかむ)、授業の終末には、本時で何を学んだか(知識の整理)、どう考えるか(思考の整理)を意識した学習感想を書き、学習内容の定着を図ったり、次時への意欲付けをしたりする。
- 道徳科を要として、学校教育全体を通して非認知能力の向上を図る。
- 3年生以上で、マイ辞書の取り組みを行い、語彙力の向上を図る。

(2) 個別指導の工夫

- 朝学習や休み時間、長期休業期間を活用し、テストの見直しや補充的な学習など、個に応じた指導を行う。
- 東京ベーシック・ドリル、問題データベース、ミライシードを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。児童の学習状況を捉え、既習内容を活用した、発展的な課題に取り組ませる。
- 「ぐんぐんのびる二葉タイム」(算数の基礎計算)で対象児童を重点的に指導する。

(3) 教員の授業力向上

- 校内研究では、『思考力・判断力・表現力』を育むカリキュラムマネジメントについて昨年度から研究し、培ったものを基に、教科の垣根を越えて思考力・判断力・表現力を高める活動を計画的に取り組んでいく。
- 問題解決型のプロセスで、「見通し」と「振り返り」を重視し、自分の言葉で整理したり、次の学習のイメージをもったりする時間を設けるなどの授業改善を行う。
- 教科担任制についての取組を進める中で、国語・社会・体育の専門性を向上させる校内研修を各グループで行う。
- 教科担任制実施以外の学年では、教科の専門性の高い教員と連携し、授業で使用する資料の選定や、実験道具等の準備を学年の複数の教員で行い、活用方法や授業の進め方等を十分に確認する。

3 「令和9年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・全教科の全観点において、全国平均+5ポイント以上を目指す。
- ・全学年全教科において、区の平均正答率より上回る結果を目指す。
- ・i-Check 最後までやりぬく力の肯定回答が80%となるようにする。